

2022年度 シラバス作成要領

来年度開講予定の授業について、内容と計画を学生にわかりやすく示し、**学内のポータルサイト上に掲載**いたします。（冊子は作成しません）

つきましては、先生のご担当科目について、次の要領で作成していただきますようお願い申し上げます。

来年度も新型コロナの感染状況の予測が難しい状況ですので、**⑨備考欄**などに授業実施方法をご記入いただき、感染状況により変更する可能性があることも併せてご記入ください。

《作成方法》

「教員ポータルサイト」から入力

全ての項目について記載をお願いいたします

【見本】

授業内容の部分

授業計画の部分

週	テーマ (2行まで)	学習内容 (2行まで)
1	免疫系の概観	免疫系の概念：自然免疫と獲得免疫 免疫細胞：リンパ細胞
2	自然免疫	自然免疫に関する細胞、自然免疫における抗原提示、TLR
3	獲得免疫：抗原の提示と提示	細胞免疫（免疫細胞：リンパ細胞の細胞と細胞、自然免疫） 抗原提示細胞、MHC分子、抗原提示の分子メカニズム
4	獲得免疫：抗原の認識	B細胞：BCR、抗体 T細胞：TCR
5	獲得免疫：細胞性免疫	T細胞の活性化に必要な分子（抗原提示、TCR複合体、共刺激分子、誘導因子） T細胞の分化と機能
6	獲得免疫：抗体免疫	抗体生成（細胞性免疫） 抗体の特性、T細胞との相互作用、抗体の機能
7	獲得免疫：抗体免疫	抗体の特性、抗体の機能
8	免疫応答と免疫記憶、免疫寛容	免疫記憶と免疫寛容
9	免疫系の障害と免疫系の応答	免疫系の障害（アレルギー） 免疫系の応答（アレルギー）
10	免疫系の障害と免疫系の応答	免疫系の障害（アレルギー） 免疫系の応答（アレルギー）
11	免疫系の障害と免疫系の応答	免疫系の障害（アレルギー） 免疫系の応答（アレルギー）
12	免疫系の障害と免疫系の応答	免疫系の障害（アレルギー） 免疫系の応答（アレルギー）
13	免疫系の障害と免疫系の応答	免疫系の障害（アレルギー） 免疫系の応答（アレルギー）
14	免疫系の障害と免疫系の応答	免疫系の障害（アレルギー） 免疫系の応答（アレルギー）
15	まとめ	免疫系の障害（アレルギー） 免疫系の応答（アレルギー）

入力期限 2月25日（金） 23時59分

【入力方法】

①科目の情報

学科・授業科目の区分・ID 番号・科目名・授業方法・単位数・選択区分・開講年次・開講学期 → **既に入力済** (変更不可)

科目の情報					
科目名	免疫学				
担当教員氏名	●●●●●				
開講年度	2020 年度	学科・専攻・コース	臨床検査・臨床検査	学年・学期	1年・後期
授業方法	講義	必修・選択	必修	単位	1 単位

②ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力

- ・該当する項目を選択し、ドロップダウンリスト（赤枠の▼）で、◎か○を選択する
- ・最大 **5 項目まで** 選択が可能
- ・選択した項目のみシラバスに自動的に表示される

表示例

③授業の概要（196 文字以内）

授業の目的の説明を入れる

- ・この授業を設けている「理由」を学生が理解できる内容にする

「～が理解できるようになるために、～について学ぶ」というような表現にすると目的を理解させやすい。

- ・「学生便覧」に記載されている「カリキュラムポリシー」と関連させた内容にする
- ・内容を簡潔にまとめること
- ・学生にとってわかりやすい表現で作成すること
- ・実務家教員の場合は、授業内容が実務経験に基づく内容になっていること

入力例

④授業の到達目標（196 文字以内）

- 「ディプロマポリシー」に沿って、到達目標を具体的に示す

- 学生を主語にし、簡潔に箇条書きにする。

「～できる。」「～を理解している。」

など

- 抽象的な表現はさける。
- 目標が多くならないようにする。

入力例

授業の到達目標（7 行まで）	
	90
①自然免疫による感染防御機構を説明できる。 ②自然免疫から獲得免疫への移行を説明できる。 ③獲得免疫における免疫応答と免疫反応を説明できる。 ④免疫学的検査が有効な疾患について免疫応答と免疫反応に関連付けて説明できる。	

★ループリック評価を採用する場合は、⑤《成績評価の方法》に追加で記載してください。
また、実験・実習は、できるだけ、「ループリック評価」を取り入れてください。

⑤成績評価の方法（140文字以内）

- 「学修成果」と関連付けた「到達目標」の項目が、達成できているか評価する。

評価方法の方法

- あいまいな評価法は用いない。
- たった1回の試験で評価しない。

（「筆記試験100%」は不可 ※注1を参照）

- 数値で比較できない情緒的判断による評価はしない。
- 確認試験（小テスト）、時間外学修のための課題、中間試験、期末試験などで、総合的に科目の学修成果を査定する。
- 数値化された公平な評価であること。

・実験、実習、及び講義中のアクティブラーニング（ディスカッションなど）は、できるだけ「ループリック評価」を取り入れてください。

- 「出席」は評価対象に入れないこと
- 「平常点」を評価対象とする場合は必ずその内訳を記載すること

入力例1

成績評価の方法（5行まで）	
	41
①平常点 50%（小テスト30%，AL10%，学修ノート10%） AL：アクティブラーニング ループリックで評価します。	
②期末試験 50% 《試験のフィードバック方法》 期末試験終了後に解説する。試験60分・解説30分	

入力例2

成績評価の方法（5行まで）	
	65
①レポート（70%） ②平常点（学習態度（15%）及び講義中の提出物（15%）） 《課題へのフィードバックの方法》 提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。	

記載例1

小テスト 20%、中間試験 30%、
期末試験 40%、アクティブラーニング
（ループリック評価）10%

記載例2

中間試験 30%、期末試験 60%、平常点
（小テスト・発表など）10%

記載例3

レポート 30%、期末試験 50%、および
平常点（実習態度、毎回の作品提出状況
等）20%の割合で総合評価する。

上記4項目のうち、いずれかが基準に満たない場合、単位は認定されない。

・評価について学生への

《フィードバックの方法》を記載する

記載例 1

期末試験後に解説を行う。(試験 60 分・
解説 30 分)

記載例 3

レポート(提出物)について講評の時間
を設ける。

記載例 2

小テスト：試験後に解説(10 分)
期末試験：試験(60 分)後に解説(30 分)

※注 1

期末のペーパーテストだけで評価を行うのではなく、ペーパーテストに加えて、**質問・発言内容・受講態度・レポート**などを組み合わせた評価方法が必要となります。

また、「**③授業の到達目標**」に対する**達成度**も成績評価の重要な項目となりますので、段階的に到達度を測り、**毎回の講義の積算**が成績評価に反映されるような方法を設定してください。

これには、**複数回の確認テスト(小テスト)**を行うことが有効な方策の 1 つとされています。

⑥テキスト(84 文字以内)

- ・自主学修ができるよう、テキスト、資料は必要
- ・授業で毎回使用するテキスト(学生に必ず購入させるもの)を記載する。
- ・書名は下記の**順番と様式**で記載する。

著者名「テキスト名」(出版社名)

- ・資料として、授業でプリントを配布する場合は、その旨を記載する。

入力例

テキスト (3 行まで)
31 窪田哲朗他 臨床検査学講座「免疫検査学」医歯薬出版 配布資料：授業内容と事後学修のための問題を記載している。

⑦参考図書(168 文字以内)

- ・学生に購入させないもの
- ・授業で直接使用しないもの
- ・持っている则在学中・卒業後も非常に役に立つものを挙げる。
- ・書名は下記の**順番と様式**で記載する。

著者名「テキスト名」(出版社名)

入力例

参考図書 (6 行まで)
132.5 「病気が見える⑥免疫・膠原病・感染症」MEDIC MEDIA その他適宜紹介します。

⑧授業時間外学修（168 文字以内）

事前学修と事後学修に分けて記載する。

学生は、何からとりかかれば良いのか分からないので、具体的に示す

- ・ **事前学修** この学修を踏まえて授業が進められるような内容を具体的に示す
- ・ **事後学修** 復習することを具体的に示す
- ・ およその**所要時間**を列記する

記載例 1

事前学修

- ・ 授業計画に記載した語句(キーワード)の意味を調べノートに書いてくる。
(20 分程度)
- ・ 必ず事前にテキストに目を通しておくこと。(20 分程度)
- ・ テーマを与えて、授業前に調べてもらうこともある。(30～40 分程度)

など

入力例

授業時間外学修 (6 行まで)
22 学修ノート (A4) を準備し、事前事後学修の内容を記す。 事前学修 (20分) : 次回の授業範囲を読み、授業計画の学習内容欄に示した単語について簡単な説明をノートに書く。 事後学修 (60分) : 教科書とプリントを参考に、復習問題を解き、最後に授業の要点を記す。 授業中にディスカッション、グループワークを行う。

事後学修

- ・ 教科書と配布プリントを参考にしながら、復習問題を解く。(60 分程度)
- ・ 毎回行う小テストの復習 (20 分程度)
- ・ 過去問題に取り組み、間違った問題を復習する。(10 分程度)

など

⑨備考（84 文字以内）

- ・ 受講するためのアドバイスや授業実施方法などをご記入ください。

記載例

- ・ **ノート整理が重要です。**
- ・ 感染対策をとり対面授業
- ・ 遠隔授業と対面授業の併用
- ・ 授業実施方法は、感染状況により変更することがある。
- ・ **実務家教員による授業**の場合は、「実務家教員による授業」と記載する

など

入力例

備考 (3 行まで)
遠隔授業と対面授業の併用 ただし、感染状況により変更することがある。 実務家教員による授業

実務家教員の場合は、**実務家教員による授業**とご記入ください。

★**アクティブラーニング**の手法で授業を行う場合は、**⑩授業計画**で、実施する学習内容の欄や**⑨備考**に記載してください。

⑩授業計画

テーマ（各回 **2行×11文字**以内）

学習内容（各回 **2行×39文字**以内）

「期末試験」は入力しない

テーマ・学習内容

「学習内容」は、「事前学修」しやすいようにできるだけ**詳しく、具体的に**示す。

★**アクティブラーニングの手法**で授業を行う場合は、その**手法名を具体的に記載**する

《アクティブラーニングの手法》

P B I (問題解決型学習)、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク など

★**ICTを活用した情報分析等の要素**を含む授業とは『授業全体を通じて I T 技術を活用する授業内容であること』

- ・ I T 技術を有効活用することで、情報を伝達・交換するのかに着眼点を置いている
- ・ I T 技術を学習する授業がベースになっている

授業計画			
講	テーマ (2行まで)	学習内容 (2行まで)	
1	免疫系の構成要素	免疫系の概念、免疫担当細胞：リンパ球(T, B, NK)、顆粒球、樹状細胞、骨髄細胞、肥満細胞	30
2	免疫系の構成要素	中枢リンパ臓器、末梢リンパ臓器：骨髄、胸腺、脾臓、リンパ管とリンパ節、MALT	41
3	自然免疫	自然免疫における病原菌認識の機序、自然免疫の構成要素と機序：パターン認識、Toll-like receptors、アポトーシス	24.5
4	獲得免疫系への抗原提示	APCによる抗原の取り込み、MHC分子、抗原の加工と提示、MHCクラスII分子、MHCクラスIII分子、抗原性肽、内源性抗原	22.5
5	獲得免疫における抗原の認識	B細胞の抗原認識、抗原の経路、抗原の輸送と機序、T細胞の抗原認識：抗原-MHC複合体の可変部と抗原の機序、アイソタイプ、アロタイプ、イデオタイプ	9
6	T細胞の活性化機序と発現	T細胞の活性化に必要な分子群：TCR複合体、共受容体、共刺激分子、エフェクター機序	39.5
7	抗原の産生機序と発現	B細胞とT細胞の相互作用、抗原産生、抗原の機序：リンパ節、脾臓、骨髄、抗原提示細胞の機序、クラススイッチ	29.5
8	獲得免疫の機序	獲得免疫の3つの経路、各経路の活性化：別経路、レクチン経路、古典経路、アポフィロトキシン、膜抗原	30.5
9	まとめ1	到達目標① AL：第1回～第8回までの内容をプレゼンテーションする。	44
10	細胞免疫と自然免疫、自己免疫	細胞免疫、自然免疫、自己免疫：ワクチン、抗毒素、免疫グロブリン製剤、母乳免疫、positive/negative	25.5
11	免疫学的検査が有用な疾患	細菌感染症、ウイルス感染症：エンドトキシン、異型肺炎、異好抗体、血球凝集反応	39
12	免疫学的検査が有用な疾患	ウイルス感染症、真菌感染症、寄生虫感染症：ウイルス性肝炎、インフルエンザ、HIV、オセルタミビル、B-2グルカン	24.5
13	免疫学的検査が有用な疾患	腫瘍性疾患、アレルギー：腫瘍マーカー、Mタンパク、I型アレルギー	44
14	免疫学的検査が有用な疾患	自己免疫疾患、免疫不全症：組織特異的/全身性自己免疫疾患、B細胞・T細胞・樹状細胞の障害、補体	26
15	まとめ2	到達目標② AL：第10回～第14回までの内容をプレゼンテーションする。	46

記載例

（実施する日の学習内容の欄や備考に記載してください。）

- ・ グループ別に課題についてディスカッションしてまとめる
- ・ 研究発表会は、パワーポイントを用いてプレゼンテーションする

例

- ・ We b でバラバラの情報を集めて○○サイトを作る。
- ・ 廿日市市の産業情報や観光地情報を収集し、山女視点のサイトを立ち上げHPにアップする など

《授業回数が **15 回未満** の場合》

入力例 1

文字が入力されていない全ての「テーマ」と「学習内容」の枠に、スペースキーで「空白」を 1 文字以上入力 する

入力例 1 《15 回未満》

授業計画		
週	テーマ (2 行まで)	学習内容 (2 行まで)
1	20	67
2	18	64
3	18	76
4	17	71
5	13	73
6	14	71
7	14	73
8	14	68
9	21	68
10	21	68
11	21	68
12	21	68
13	21	68
14	21	68
15	21	68

～ 以下の枠には1文字ずつ空白が入っている ～

注意; 15 回未満の場合は、文字が1文字も入力されていない枠があると登録できないため、全ての枠に必ずスペースキーで「空白」を1文字以上入力してください。

《授業回数が **16～30 回** の場合》

入力例 2

1 つの枠を 上下に分けて、2 回分 の授業のテーマと内容の入力を行う

入力例 2 《16～30 回》

授業計画		
週	テーマ (2 行まで)	学習内容 (2 行まで)
1	1 免疫系のしくみ① 2 免疫系のしくみ②	4 免疫の概要 自然免疫と獲得免疫
2	3 免疫系のしくみ③ 4 免疫系のしくみ④	5 異種免疫 細胞性免疫、受動・能動免疫、免疫寛容
3	5 免疫学的検査① 6 免疫学的検査②	6 抗原抗体反応、検査法 感染性と検査
4	7 免疫学的検査③ 8 免疫学的検査④	7 アレルギーマニエーション検査と検査 自己免疫、免疫不全と検査
5	9 輸血・移植検査① 10 輸血・移植検査②	8 ABO式血液型、Rh式血液型 血液製剤、輸血副作用

【登録(仮)方法】

	点	アレルギーと免疫学的検査	点
13	免疫学的検査が有効な疾患4 9.5	自己免疫疾患と免疫学的検査	65
14	免疫学的検査が有効な疾患5 9.5	免疫不全と免疫学的検査 免疫学的検査が有効な疾患 まとめ	51
15	まとめ 19	確認試験4（免疫学的検査が有効な疾患） 国家試験問題	53.5

☐ 確定する（確定後は編集が出来なくなりますのでご注意ください）

①

仮登録…入力後 ① をクリック（訂正・修正の必要があるため）

※ この時点では「確定」しないでください

チェック後、修正をお願いすることがあります。確定の時期は後日お知らせいたします。

※ご注意！ 1文字も入ってない枠があると、登録できません

【完成見本】

《専門教育科目 専門基礎》					
科目名					
担当者氏名					
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎	1-66（知識と理解）臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。			
	◎	3-70（態度と志向性）グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。			
	◎	4-72（総合的な学習経験と創造的思考力）習得した知識を総合的に活用したプレゼンテーション能力をもつ。			
《授業の概要》			《テキスト》		
自然界において、自己と非自己の識別は厳密におこなわれ、個々の遺伝的な特性が維持されている。異物から体を守るしくみを生体防御機構とよび、感染防御、移植片拒絶反応などの免疫システムがある。この免疫システムについて学び、種々の免疫性疾患の病態と検査法の理解に役立てる。			窪田哲朗他 臨床検査学講座「免疫検査学」医歯薬出版 PF配布資料pdf：授業内容と事後学修のための問題を記載している。		
			《参考図書》		
			「病気が見える◎免疫・膠原病・感染症」MEDIC MEDIA その他適宜紹介します。		
《授業の到達目標》			《授業時間外学修》		
①自然免疫による感染防御機構を説明できる。 ②自然免疫から獲得免疫への移行を説明できる。 ③獲得免疫における免疫応答・免疫反応を説明できる。 ④免疫学的検査が有効な疾患について、免疫応答・免疫反応に関連付けて説明できる。 学修ノート作成では、語句・項目ごとのラベルワークを推奨します。			授業は遠隔（ZoomとPF）で実施します。専用の大学ノート（A4）を準備し、学修内容を全て記すこと。 事前学修（20分）：授業計画の学習内容欄に示した語句について意味を確認しておく。 事後学修（60分）：教科書と配布資料を読み、授業内容を復習する。問題を解いて理解したか確認する。		
《成績評価の方法》			《備考》		
①平常点 50%（学修ノート30%、冬休み課題10%、アクティブラーニング10%）②試験50%（授業1～8回の試験：30%、授業10～15回の試験20%） 《試験のフィードバック方法》 試験終了後に解説する。試験60分・解説30分			対面授業をする場合は定められた感染予防対策を講じた上で授業を行います。遠隔授業により教育の質が向上するよう努力します。		
《授業計画》					
週	テーマ	学習内容			
1	免疫系の構成要素	免疫系の概念、免疫担当細胞、中枢リンパ組織、末梢リンパ組織 リンパ球、顆粒球、抗原提示細胞、骨髄、胸腺、リンパ管とリンパ			
2	自然免疫	自然免疫における病原体認識の特徴、自然免疫の構成要素と機能 パターン認識、Toll-like receptors, アポトーシス			
3	獲得免疫	抗原提示：APCによる抗原の取り込み、MHC分子、抗原のプロセッシング MHCクラスⅠ分子、MHCクラスⅡ分子、外来性抗原、内源性抗原			
4	獲得免疫	抗原の認識：B細胞の抗原認識、抗体の種類、抗体の構造と機能、T細胞の抗原認識、遺伝子の再構成、アイソタイプ、アロタイプ、イデオタイプ			
5	獲得免疫	T細胞の活性化機構と役割：T細胞の活性化に必要な分子群 TCR複合体、共受容体、共刺激分子、エフェクター機構			
6	獲得免疫	抗体の産生機構と役割：B細胞とT細胞の相互作用、抗体産生、抗体の機能 リンパ濾胞、H鎖定常部遺伝子の再構成、クラススイッチ			
7	獲得免疫	補体系の役割：補体系の3つの経路、各経路の活性化 別経路、レクチン経路、古典経路、アナフィラトキシン、補体調節因子			
8	獲得免疫	能動免疫・受動免疫、自己寛容の成立 ワクチン、免疫グロブリン製剤、母児免疫、positive selection, negative selection			
9	自然免疫と獲得免疫のまとめ	中間試験（対面、感染予防対策上、教室や授業時間帯を変更する可能性がある） 講義1～8回の試験60分、解説30分、学修ノート提出			
10	免疫学的検査が有効な疾患	細菌感染症、真菌感染症、寄生虫感染症に対する免疫反応 エンドトキシン、β-Dグルカン、アレルギー グループワーク（遠隔）			
11	免疫学的検査が有効な疾患	ウイルス感染症に対する免疫反応 ウイルス性肝炎、インフルエンザ、HIV感染症 グループワーク（遠隔）			
12	免疫学的検査が有効な疾患	ウイルス感染症に対する免疫反応：インフルエンザ、HIV感染症、腫瘍マーカー、Mタンパク、 I～IV型アレルギー グループワーク（遠隔）			
13	免疫学的検査が有効な疾患	腫瘍性疾患に対する免疫反応、アレルギーでみられる免疫反応 腫瘍マーカー、Mタンパク、I～IV型アレルギー グループワーク（遠隔）			
14	免疫学的検査が有効な疾患	自己免疫疾患：自己寛容の破綻 免疫不全症：先天性・後天性、体液性・細胞性免疫 グループワーク（遠隔）			
15	免疫学的検査が有効な疾患	グループワークでまとめた内容をプレゼンテーション（遠隔）する。ルーブリック評価（学生、教員）			

【全内容を別のシラバスに複写する方法】

I 次年度用に作成したシラバスを他のシラバスに複写する場合

既に入力済みの次年度のご自身のシラバスから編集最中のシラバスに、内容を丸ごとコピーする機能があります。(同じ科目を複数入力する時に便利です)

※下の**赤枠**の「シラバスの複写」をクリックする

教職員ポータルサイト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

教員 ●●●●でログイン中 ログアウト

トップ シラバス検索 シラバス登録

シラバス登録 > 編集

科目の情報					
科目名	先産学				
担当者氏名	●●●●				
開校年度	2020 年度	学科・専攻・コース	臨床検査・臨床検査	学年・学期	1年・後期
授業方法	講義	必修・選択	必修	単位	1 単位

シラバスの複写 シラバスの印刷

シラバスの情報

II 前年度以前に作成したシラバスを複写する場合

ご自身が入力された前年度のシラバスの内容を、編集集中のシラバスに丸ごとコピーする機能があります。(内容が前年度とあまり変わらない場合に便利です)

1. 「シラバス」→「シラバス検索」に進み、該当箇所にはチェックまたは文字を入力し「検索」をクリックする。

教職員ポータルサイト

職員 ●●●● でログイン中 ログアウト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

トップ シラバス検索 シラバス登録

シラバス検索

シラバスの表示条件

① 開設年度 ☒ 2022 年度 ☒ 2021 年度 ☐ 2020 年度 ☐ 2019 年度

② 開設学期 ☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年

③ 学科・専攻

☐ 人間生活学科	☐ 臨床検査学科 (臨床検査)	☐ 人間生活学科 (人間関係)	☐ 食物栄養学科
☐ 食物栄養学科 (栄養管理)	☐ 食物栄養学科 (栄養調理)	☐ 人間生活学科 (医療事務)	☐ 臨床検査学科
☐ 食物栄養学科 (フードビジネス)	☐ 人間生活学科 (ライフデザイン)	☐ 人間(医療)	☐ 人間(人間)
☐ 人間(医情)	☐ 人間(オフィス)	☐ 食物(栄養)	☐ 人間(心理)
☐ 食物(栄養)	☐ 食物(フード)	☒ 臨床(臨床)	☐ 食物(食品)
☐ 専攻(診療)			

④ 開設学年 ☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年

⑤ 担当教員 (部分一致) ●●

⑥ 授業科目名 (部分一致) ▲▲学

検索 クリア

- この中から
項目を選んで検索する
2つ程度
- ① 開設年度 2022 年度・2021 年度ともに☒を入れる
 - ② 開設学期 該当学期に☒を入れる
 - ③ 学科・専攻 該当する学科コース略名 (短い方) に☒を入れる
 - ④ 開設学年 該当学年に☒を入れる
 - ⑤ 担当教員 苗字のみか名前のみを入力する
 - ⑥ 授業科目名 対象科目名を入力する

「検索条件」を全て入力すると**検索できません**

※ 条件を **少なく設定するほど** 検索しやすくなります。

2. 表示された前年度のシラバスの欄の「複写」をクリックする。

教職員ポータルサイト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

トップ シラバス検索 シラバス登録

シラバス検索

シラバスの表示条件

開設年度 ☒ 2022 年度 ☒ 2021 年度 ☐ 20120 年 ☐ 2019 年度

開設学期 ☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年

学科・専攻

開設学年 ☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年

担当教員 (部分一致) ●●

授業科目名 (部分一致) ▲▲学

検索 クリア

全て選択 全て解除 選択したシラバスを印刷

シラバスの検索結果

	年度	科目名	学科・専攻・コース	学年	学期	担当者氏名	編集状態	操作
	2022 年度	▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	未入力	新規
☐	2021 年度	▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	確定	閲覧 複写

3. 次年度担当科目の一覧が表示されるので、対象科目の「複写」をクリックする。

教職員ポータルサイト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

トップ シラバス検索 シラバス登録

▲▲学の複写先を選択します キャンセル

編集中のシラバス一覧

科目名	学科・専攻・コース	学年	学期	担当者氏名	操作
▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	複写
○○○○Ⅱ	臨床検査	2年	後期	●●●●	複写
◎◎◎◎◎演習	臨床検査・臨床検査	3年	後期	●●●●	複写

未入力のシラバス一覧

科目名	学科・専攻・コース	学年	学期	担当者氏名	操作
▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	複写
○○○○Ⅱ	臨床検査	2年	後期	●●●●	複写
◎◎◎◎◎演習	臨床検査・臨床検査	3年	後期	●●●●	複写

4. 複写された内容を確認・修正後、登録する。

4	獲得免疫：抗原の捕捉と提示 9	抗原提示細胞、MHC、抗原のプロセッシング	57.5
5	獲得免疫：抗原の認識 12	T CR, B CR	71
6	獲得免疫：細胞性免疫 12	T 細胞	75
7	獲得免疫：液性免疫 13	B 細胞、免疫グロブリン	67
8	獲得免疫：液性免疫 13	補体成分、補体活性化経路	66
9	能動免疫と受動免疫、免疫寛容 8	能動免疫と受動免疫、免疫寛容の成立	61
10	まとめ：自然免疫と獲得免疫 9	中間試験：自然免疫と獲得免疫	64
11	免疫学的検査が有効な疾患1 9.5	感染症と免疫学的検査	68
12	免疫学的検査が有効な疾患2 9.5	腫瘍免疫と免疫学的検査	67
13	免疫学的検査が有効な疾患3 9.5	アレルギーと免疫学的検査	66
14	免疫学的検査が有効な疾患4 9.5	自己免疫疾患と免疫学的検査	65
15	免疫学的検査が有効な疾患5 9.5	免疫不全と免疫学的検査、まとめ	63

☐ 確定する（確定後は編集が出来なくなりますのでご注意ください）

チェックしない！

※ この時点では「確定」しないでください

チェック、修正が済んでから「確定」の時期をお知らせいたします。

【科目検索のコツ】

探している科目が検索できない場合は、検索条件を 2つ程度に 減らすとヒットしやすくなります。